船内巡検の大切さ

出光タンカー（株）
三等航海士　　礒垣　洋平

航海士として外航タンカーに乗船してから７カ月が経過しました。商船乗船を初めて体験し、また７カ月乗船して改めて感じている事は、船では限られた人数で生活と仕事を行うために各人員に割り当てられた明確な仕事が船上生活の基盤として存在するという事実です。自分は三等航海士として乗船しており、仕事の大部分を航海当直が占めています。また航海当直と同様に夜間当直後は毎日船内巡検を行います。自分の当直時間は 8-12 当直なので毎日 0 時を過ぎた後に巡検を行います。新人航海士として船で仕事をしていると、当直中の事柄や、当直以外に割り当てられた各種担当作業において、初めて行うことも多く、日々試行錯誤しながら作業をこなしている状況です。その中で日々様々な事柄に気付く機会があります。

以下では、航海当直後の船内巡検の際に気付いた事に関して述べたいと思います。

航海中、いつもと同じように当直後にエンジンルームの巡検を行っていました。ステアリングルームから始まり、チェックリストに従い、いくつかのインジケーターの値を読み取ります。その順路の中で、主要な機器の状態、及びその周辺、プロペラシャフトやビルジウェルを見て回り、またエンジンルーム内に火災、油や水漏れが無いかを確認する事が巡検の流れとなっています。チェックリストは機関制御室にあるため、巡検終了後は機関制御室に行きチェックリストに記載することで巡検が終了します。その日は、機関士が制御室でまだ仕事をしていたため、巡検が終わったタイミングで話す機会がありました。そこで指摘を受けた事は、「機関室巡検にかかる時間が短すぎるのではないか」という事でした。自分はその指摘により、船内巡検について考えるきっかけを得ました。指摘された日は、特別急いで巡検を行ったわけではなく、通常通りルートで自分なりのペースで巡検を行っていましたが、自分の巡検は、エンジニアの視点から見ると、短すぎる巡検をしていた事になります。

その理由としては、一か所にかける時間が短い点。チェックすべきポイントが抜けている点。そして巡検の際の意識がエンジニアと異なる点という三点に原因があるのではないかと考えました。巡検の際に大切な事は、無人状態の機関室で火災報知機等のセンサーが作動する前に火災の予兆を掴み、またその原因となり得る事象がないかを確認する事。そしてセンサーでは早期の探知がしにくい、水漏れや油漏れを確認することだと思います。また、物がいつもとは異なる様子で散乱していないか、出港後であれば不審者の探知も含まれると思います。自分はさらに、何か問題点があったとして、巡検の際にそれに気づける人と気付けない人の違いを考えました。第一はその問題点を巡検中に見ていない点。第二は見ていたが自分の中では大した問題であると考えず、その結果報告または対応をしない

点。第三は事象を把握できているが、その事に対しての知識が無いため異常であると認識出来ず、その結果対応しようと思えないという三点です。
自分自身の事を考えると、三番目のそもそも異常だと認識出来ていないという事が少なからずあるように感じます。そして、機関室巡検にかかる時間が短い理由としても、問題が起きる可能性のある場所が把握しきれていないので、見ていない個所が多々あり、結果的に短い時間で巡検を終えてしまっているのではないかと思いました。
航海士としての勉強をする過程で、自分は機関の事を学ぶ機会が少なく、機関に対しての知識が乏しいように感じています。しかし、航海士として夜間の巡検を担当するので、その業務を遂行するための知識は必要だと感じました。
その観点でいえば、詳しく意味や機構がわからないとしてもその場所や設備の正常な状態を知っている事がとても大切であると思いました。
そして巡検の際に、少しでも疑問に思う事があった場合には、当直の機関士に直ぐ確認するという事が求められている事ではないかと思います。
　航海当直に入っている間は、毎日巡検を行うことになります。また、航海当直を行わなくなったとしても、船の仕事は日々巡検の延長のようなものだと思います。
甲板上で運動している時であっても、居住区域で休んでいる時であっても、普段と違う状況に出会ったら、それが及ぼす影響とそうなった原因を考える事が大切なのだと思います。
船は自然環境の中にあるため、予測できない事柄が多く、常に危険に曝されています。各種技術や船を取り巻く環境が向上して、過去と比較すると便利、安全になったとはいえ、浸水が沈没に繋がり、火災になったら逃げだす事もままならず、消火作業も自分たちだけで行わなくてはならないという環境は、陸上とは比較にならないリスクと共に生活している事に変わりはありません。このような状況下で、安全を保ちながら船上生活を行うためには、正常な状態を把握、人間の五感で確認し、危険な状況になる前にその状況を回避すると事がなによりも大切であると考えます。日々の作業や勉強を通して学んだ事を活かしながら巡検を行い、その積み重ねを繰り返していき船全体の安全に貢献していきたいと思います。